

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

協会に 二重の喜び 創立 20 周年祝賀会と、千葉県表彰

グループヘア公使から出身地ミュンヘンのメイポールの飾りが金谷会長に贈られた。「協会がさらに育つように」との願い、といわれる。↓

「20 年という若い協会が 150 年という日独両国の緊密な協力と伝統を保持し、将来への形を作ったことは千葉県日独協会の功績です」。10 月 22 日、船橋市・グランドホテルで開かれた協会創立 20 周年の祝賀会で、来賓のドイツ連邦共和国公使、S・グループヘア (Dr. Stephan Grabherr) 氏は“最大級の祝意”を述べて注目された。この祝賀会直後の 11 月 3 日、当協会は千葉県の「地域観光振興功労」賞で表彰された (詳報は 3 面)。当協会がデュッセルドルフ・日本デーで日独交流に尽くし、ドイツ人への千葉県の理解を深めたと評価されたもので、二重の喜びとなった。

記念祝賀会には来賓 23 人、会員 48 人が出席した。午後 2 時から、第一部が同ホテル「菊の間」、第二部が「桐の間」でそれぞれ行われた。

一部で、金谷会長は“成人”の仲間入りをした協会の創設に尽くした故花井清氏 (9 月 1 日死去) など先人の活躍を披露した後「全国で 60 を超える日独協会の中でも当協会はいろいろな人がバランスよく集まった会であり、ドイツ軍人慰霊祭を続けながら後継会員の育成に努めたい」と述べた。

両国の国歌斉唱に続き、来賓の祝辞ではグループヘア公使など 6 人の来賓 (代理を含む) からお祝いの言葉が寄せられた。同公使は 11 月 14 日のドイツ共和国、ヨアヒム・ガウク大統領訪日の意義に触れた後、最近設置された「独日エネルギー協議会」の役割に理解を求めた。この協議会は両国の自治体代表が毎年集まりエネルギー供給の新しいアイデアを討議するもので、公使は市民や企業が提供するエネルギー市場や環境破壊しない再生エネルギーの創出、エネルギー生産が可能な住宅建設の技術革新に貢献したい」と強調した。

千葉県知事、船橋市長 (いずれも代理) に続いて、宮本泰介・習志野市長が登壇し「習志野ドイツフェア」への協力に感謝しながら、同市教育委員会の講演「ドイツ兵士の見た NARASHINO」を取り上げた Die Eiche 61 号 (2009 年 9 月 10 日) を引用し、「(第一次世界大戦時の)「習志野俘虜収容所」を歴史資産や教育的見地からだけではなく、これからの街づくりにもドイツとの関わりを積極的に見出していきたい」と意気込みを語った。



記念講演 「日本復活のカギは」

記念講演は「ゾンデルホフ & アインゼル法律特許事務所」(東京千代田区) の代表弁理士、フェリックス・R・アインゼル氏 (48) = (公財) 日独協会理事= による「日独関係の変遷を通じて見る日本の将来」。父がドイツ人、母が日本人のアインゼル氏はよどみない日本語で、中国の台頭による日独関係の変化を語った。同氏は対日投資が減ったのはドイツ企業だけではないと指摘し、(外国企業が投資をするような) 日本復活のカギは『教育制度の民主化』である」と述べた。

チターの哀切な旋律が・・・



第二部は、平尾浩三・名誉会長と日本チター協会会長の内藤敏子さん (当協会理事) による「演奏と対談」で始まった = 写真上。 「この 20 年間、チターの響きが私の日々をしばしば可憐な彩と美しい思い出で飾ってくれたのであります」と切り出した“平尾節”。受ける内藤さんが習志野の地名の元になったとされる曾祖父、篠原国幹・元陸軍少将、チター演奏をめぐる秋篠宮妃殿下の思い出を語り演奏へ。ローレライ、エーデルワイス、第三の男、そしてリリーマルレーンなど哀切な旋律が会場に流れていった。

続いて、宗宮好和・名誉会長の乾杯の音頭で懇親会に入り、出席者は会場中央に並んだ料理、ワイン、ビールを手にとり歓談に興じた。懇談の中、(財) 五倫文庫理事長の伊藤良昌氏、(公財) 日独協会理事・黒川剛氏らがスピーチ。新婚ほやほやの同協会の鎌田タベアさんが夫の住所地の関係で「千葉県日独協会に入会しま〜す」と壇上で笑顔をふりまき、華を添えた。

(記念講演要旨と、来賓の祝辞は 2、3 面に)

フェリックス・R・アインゼル氏記念講演【日独関係の変遷を通じて見る日本の未来】要旨

日本は近代国家樹立の過程で、軍事、医学、法学、哲学、技術など、多くの分野においてドイツから学んできたという歴史がある。私が現在代表弁理士を務めているゾンデルホフ&アインゼル法律特許事務所は、法律や技術について、ドイツ企業やドイツ人を明治末期から現場で支えてきた。創始者の一人であったカール・フォグド博士は、シーメンス事件において、シーメンスの極東支配人であったウィクトル・ヘルマンを代理し、当時検事総長であった平沼騎一郎（後の総理大臣）に直接面会を許され、身柄の釈放をお願いしている。また、フォグド博士自身も俘虜であった久留米の俘虜収容所では、真崎甚三郎所長によるドイツの2将校殴打事件で真崎



所長とドイツ将校との間の仲裁役として骨を折った。

それから 100 年以上が経った今、日独関係は中国の台頭などにより岐路にたまたされ、ドイツ企業からの対日投資は確実に減ってきている。しかし、それはドイツに限ったものではなく、他の外国からの投資についても当てはまる。長期的な視野にたった場合、私が日本復活の鍵として挙げたいのは「教育制度の民主化」である。第二次世界大戦の後、日本は制度としては民主主義を採り入れたものの、それは現在においてもまだ不完全なものに留まっている。なぜ

なら、民主主義を維持し、機能させるために必要不可欠な要素となる国民の政治的成熟性を担保するための教育制度が存在しないからである。民主的な価値を学校教育において時間をかけて教え、また議論中心の授業を行うことが必要となってくる。そうすれば、政治・司法・マスコミ・学者などの質は飛躍的に向上し、また長年の懸案事項である国民の口語英語教育問題も自然と解消するだろう。「教育制度の民主化」は安定した政治を生み、西欧諸国との価値観の共有により、外国からの新たな投資のための土壌を生む結果となる。日本人が従来から持っている勤勉さや道德意識の高さと組み合わせればまさに鬼に金棒である。

日本が「教育の民主化」をするにはドイツをモデルにするのがベストと考える。ドイツは第二次世界大戦を生んでしまった責任から戦後、「教育制度の民主化」を徹底させた経緯がある点でやはり戦争責任を課された日本と共通するところがあるからである。しかし、日本で「教育制度の民主化」と歴史認識問題を絡めてしまったら、話は確実に前に進まなくなるため、それを切り離した上での作業が前提となるだろう。（要旨はアインゼル氏）

＜講師：略歴＞ 1968 年鎌倉生まれ、国籍ドイツ。87 年東京ドイツ学園高校卒 87 年ドイツ・ザールランド州立大法学部入学 92 年立教大法学部卒 94 年米ニューヨーク州弁護士登録 94 年ドクトル・ゾンデルホフ法律事務所入所 99 年日本国弁理士登録 2003 年特定侵害訴訟代理権取得 04 年東京理科大第二部工学部電気工学科卒 05 年ゾンデルホフ&法律特許事務所副所長 11 年同事務所代表弁理士 11 年(公財)日独協会理事

来賓挨拶（抜粋）



●ドイツ連邦共和国公使、Dr. Stephan Grabherr 氏

20 周年、おめでとうございます。次の 20 年のご成功をお祈り致します。私は 2 年前、来日しました。私はミュンヘンで、妻(マレーナ=モロン夫人)はペルーで生まれました。(私は)ミュンヘン南のきれいな湖があり、伝統文化がある町で育ちました。日本は初めてですが、沢山のおもしろくて美しいところを訪問しました。日本の自然はとても豊かで、きれいだと思います。今日は船橋に来られたことがとても幸せです。これからは難しくなりますので、ドイツ語で話します(笑)。

本日、千葉県日独協会は創立 20 周年を祝います。155 年存続する日独の友好関係に比べれば、千葉県日独協会はまだやっと歩き始めの段階です。その比較的若い年数にも拘らず貴協会は、すでにその 20 年でこの古い友好関係を単に強固にするだけでなく近代化し、それにより活気を保つことに重要な貢献をされています。とりわけドイツ語講座やドイツ旅行は日本人のドイツに対する関心を生き生きとさせ、さらに促すことに大いに貢献しています。私たちはあなた方を必要としています。

●千葉県知事（代理、岡本和貴・県総合企画部次長）

貴協会は創立以来、千葉県とドイツ、県の友好都市であるデュッセルドルフ市との間でさまざまな国際友好親善活動を行なってこられました。D 市で開催される日本デーにおける千葉県の PR 活動やノルトラインヴェストファーレン州からの奨学生受け入れにもご協力をいただきました。とくに、貴協会による若い世代への働きかけは日独交流の将来の可能性をさらに広げ、相互の理解、交流を一層促進するとともに、2005 年から始まった両県、市の交流関係の発展に大いに貢献されております。貴協会の永年にわたる功績に深い敬意を表します。

●船橋市長（代理、杉本浩司・秘書課長）

創立以来、本市にある習志野霊園に眠る慰霊碑を守り、さまざまな活動を通して国境を超えた友情を育てて来られた皆さま方のご尽力に心より敬意を表します。今日、平和の尊さを次の世代に引き継ぐためにも皆さま方の活動は大きな意義を持つものであります。日本とドイツ両国の友好通商条約が締結されて 155 年。千葉県日独協会がこれまで築いてこられた歴史と伝統のもと、さらに飛躍されまこと、両国の交流がさらに深まることを祈念します。

千葉県日独協会は
文化の日の 11 月 3 日、
「地域観光振興功労者」

協会に 千葉県“日独交流功労賞” 金谷会長、橋口副会長 授賞式に出席



として森田健作知事より県議員会館で団体表彰された。午前 10 時からの表彰式には私と橋口昭八副会長が出席した。受章の理由(功績概要)は「1995 年から 20 年間にわたり千葉県とドイツ、県の友好都市であるデュッセルドルフ市との間で行ってきた国際交流親善活動を通じてドイツ人の日本、特に千葉県に対する理解と県民のドイツに対する深い理解をもたらした日独相互の国際交流に尽力した。また、2005 年からの県とデュッセルドルフ市の友好関係の発展に大きく貢献した」というもの。私たちは「あさひ砂の彫刻美術展実行委員会」と共に団体表彰されるなど 16 種類の功労賞表彰が行われた。今回の受賞は、デュッセルドルフの「日本デー」で千葉県のテントでのお手伝いとドイツ旅行に尽力された橋口副会長、小野浩理事、伊東惇子会員、皆様の地道な努力が報われたものと思います。(会長 金谷誠一郎)

＜金谷会長と表彰状＞



橋口昭八副会長に聴く 千葉県表彰に想う

千葉県表彰で「功績」とされたデュッセルドルフの「日本デー」などで主導的な役割を果たしてきた橋口副会長にインタビューした。

Q：表彰のご感想を。

A：協会にとって良かった。個人的にも、ドイツで蓄積してきた人間関係や経験が当協会で活かされた。県にも役立ち、感謝している。



Q：「日本デー」に寄せる想いがことのほか強い!?

A：東ドイツも含めてドイツに滞在して 23 年余。千葉県とデュッセルドルフ市(D市)が姉妹交流を始めた 2005 年以降はドイツで、帰国後も県にお手伝いできた。D市は当協会が千葉県とともに「日本デー」に参加することを喜び、花火観賞に市庁舎の一室を提供してくれる。これも私たちの功績の、一つの表れではないかと思う。

Q：改めて、ドイツに滞在したのはどの位ですか。

A：商社マンとして 1967-72 年 D 市、79-86 年ベルリン、壁の崩壊後 90-93 年は D 市を拠点に東欧圏のビジネス再構築の調査にあたった。定年後はそのまま D 市で「日本クラブ」の責任者として「デュッセルドルフ日本週間」と「ドイツにおける日本年」の大型

イベントに係ることができた。2002 年の帰国後は協会で日本における「ドイツに親しむ 3 日間」の企画に携わることができて、幸せだった。

Q：日本にとってのドイツはどのような国ですか。

A：戦後日本、とくに重工業の復興はドイツからの技術導入なくして語れない。当時、革新的な鋼の連続製造設備からコーヒーの焙煎技術まで“硬軟取り混ぜて”お世話になった。だが、1970 年代に入り日本の電子機器の怒濤のような流入でドイツ企業が圧迫され、実に陰湿な関係に陥ったことがある。これが「日本デー」に繋がっている。

Q：表彰後の協会については？

A：私たちの活動目標を将来に向けてもう一度、考え直したい。まず、2020



年の東京五輪だ。選

＜人気の千葉県、協会ブース＞

手など多くのドイツ人が千葉県にもやって来る。協会の「ドイツ語班」を芯にしてどう体制を作るのか。ドイツ、なかでも D 市との交流やこれまでほぼ 2 年ごとに続けてきたドイツ旅行と「日本デー」参加はどうなるのか。課題は多い。会員の皆さんと協力して考えていきたいですね。(聞き手：田中 正延)

●宮本泰介・習志野市長：今日は JR 津田沼駅前のドイツフェアで、市民たちがドイツソーセージ、ビールで湧いています。これも日独協会の皆さんのご尽力のお蔭とお礼を申し上げます。協会通信の No.61(2009 年 9 月)に、わが習志野市と協会との関わりが載っています。私たちは 30 年間アメリカのアラバマ州タサカルーサ市と姉妹都市交流を続けていますが、このタサカルーサ市内にメルセデスベンツの工場がある関係でドイツのショーンドルフ市と関わりがあります。今後習志野市とドイツとの関わりについて、習志野市、千葉県、船橋市がしっかり寄与できるように私自身取り組んでいきます。

●全国日独協会連合会会長代行 (公財) 日独協会副会長(元東、西、統一ドイツ大使)、木村敬三氏：私はボンで、東京のドイツ大使をしたクラップさん(Franz Krapf 1911-2004：大使 1966-1971)と家族ぐるみのお付き合いをしたのですが、彼が最初に日本に留学した時は

千葉県の家庭に寄留してその小学生と学校に通い、日本語を勉強したという。(千葉県日独協会創設者の一人である)花井さんと日本語を学んだということがあったようです。この人は、ドイツの外交官試験を合格してまた日本に来た時もまた小学校に通ったということで、外国の言葉を覚えるには小学校に通うのはいいのかな、という気がしました。千葉県日独協会はまだ若い。ますます発展し、大きくなっていくことを祈念しています。

●千葉大学学長、徳久剛史(代読、渡部武弘・当協会理事)：日独両国の懸け橋となる活動を永年継続しておられる貴協会は教育研究を通じて同国と交流している本学としても大変心強く、今後ともご指導とお力添えを賜りますようお願いいたします。記念祝賀会のご盛会をお祈り致しますとともに、貴協会の一層のご発展を心からお祈り申し上げます。

「ドイツ軍人慰霊祭」今年も厳かに !!

ドイツ「国民哀悼の日」に当たる 11 月 20 日、ドイツ軍人慰霊祭が船橋市営習志野霊園で行われた。今年は協会主催で、22 回目。前日の雨もやみ、青空が見える“慰霊祭日和”となった。ドイツ大使館から武官のマティアス・ライボルト陸軍大佐がアンケ夫人とご子息のヨハネスさんを伴って参列した。さらに、陸上自衛隊第一空挺団、千葉県、船橋市、習志野市の来賓をはじめ、すっかりお馴染みになった千葉県立女子高校のオーケストラ部員 76 人に両親たち、習志野第九合唱団のメンバー 15 人らが慰霊碑前に並んだ。



午前 11 時、杉田房之事務局長の司会で慰霊祭が始まった。同女子高の山岡健先生のタクトで生徒達が演奏し、合唱団のドイツ国歌が斉唱された。ライボルト陸軍大佐が慰霊碑に身じろぎもせず敬礼を捧げる姿=写真左=が目をつけた。挨拶にたった当協会の金谷誠一郎・会長は、当協会が発行している通信誌「Die Eiche（ドイツカシワ）」の名前の由来と合わせ、慰霊碑正面のかなり大きくなったカシワとの関係について紹介した。続いて、ライボルト大佐がこの日の国民哀悼の日になむテーマ「死者を偲んで」について日本語でスピーチし、それをヨハネスさんがドイツ語で話すという異色のスピーチが参列者の関心を集めた。この中で、同大佐が「私たちの生命は人間の、諸民族の間の融和へと向けられた希望に彩られているのです。そして私たちの責任は家庭においても全世界の中でも平和へと向けられているのです」と述べたのが印象的だった。

来賓の挨拶の後、橋口昭八・当協会副会長が習志野俘虜収容所でスペイン風邪のため故国に帰ることなく亡くなったドイツ軍人 30 人の名前を一人ひとり読み上げた。再び、同女子高オーケストラの演奏で習志野第九合唱団の「戦友」（Der gute Kamerad）が厳かに歌いあげられた。



< 慰霊祭後、参列者と記念写真 >

最後に、ピアノによるベートーベンの「月光」の旋律が流れる中、献花へ。参列者は、お線香の煙が立ち上る慰霊碑に白菊を次々に捧げた。県立女子高校のオーケストラ部員が慰霊祭に参加したのは 3 回目。演奏は 2 回目だが、オーケストラ部長の吉田博香さん（二年生）は「日本とドイツの交流のため、このような演奏活動ができてとても嬉しい」と話していた。（吉川 三朗）



ふるさと再発見のバス旅行

いま、人気のいすみ鉄道など“ふるさと再発見”と銘打ったバス旅行が 11 月 5 日の土曜日、会員、家族など 27 人が参加して行われた。集合した JR 千葉駅前から大多喜までは雨模様の天気がいすみ鉄道・ムーミン列車に乗り込むころは晴れあがり、皆上機嫌。

幹事長役の須古正恒・副会長が車内で配布した観光パンフから風力発電など十数種の資料を手に、“にわか勉強”。気温も 20℃ 近く上がる陽気の中、大原～九十九里へ。飯岡刑部展望台でエビ天など色とりどりの“ムーミン弁当”に舌鼓みをうった。黒潮と親潮がぶつかる



♪ 銚子是这样菌や酵母などを活用する醤油醸造に最適というヤマサ醤油の工場を見学。「特選/鮮度の一滴」のお土産を手に、犬吠埼灯台に。高さ 27m の展望台から岩礁に砕ける白波、丸く見える大海原に久々の解放感を堪能した。

“釣瓶落とし”の夕暮れの中、帰路に着いたが、車中では、懐かしの映画



「喜びも悲しみも幾年月」を鑑賞し、ストーリーに自らの人生を重ねて感慨深げな会員も多かったようだ。



学んだサイエンス的 問題解決法

渡部 武弘



<エアランゲンの紋章>

ドイツとの関わりは、全てがレーザ加工の研究を通してであった。1980 年代、レーザ加工研究の主体は北米、日本、イギリスで、ドイツは比較的遅れていた。

しかし、その遅れを取り戻すために 1985 年頃から、国、大学、民間企業が連携した国家プロジェクトが立ち上がり、研究が急速に進展した。

ドイツとの関わりが強くなったのは、アムステルダムにおける国際会議での研究発表を契機に、1994 年 8 月から 9 月までの 18 日間、欧州のレーザ加工研究の調査に行ったことである。オランダ、イギリス、ドイツの大学や研究機関を訪問し、意見交換を行った。特に、ドイツでは 10 日間滞在し短期間に大きな成果を出していた。

次に、文部省派遣在外研究員として 1996 年 7、8 月の 2 ヶ月間、共同研究を行ったことである。当研究員は、千葉大学工学部教員 245 人の中から 1 年に 1 人が派遣される狭き門であったが、5 年越しの申請が実を結んだ。1995 年 11 月からカナダで 7 ヶ月、イギリスで 1 ヶ月、そしてドイツで 2 ヶ月の共同研究を行った。

ドイツでの研究機関はエアランゲン・ニュルンベルク大学で、基礎研究と応用研究の大家がおられた。研究室の構成は、教授、博士課程の学生、博士号取得者で総勢 20 人ほどであった。学生の研究室に机を並べ、学生の研究指導と意見交換を行った。学生は午前 7 時頃には研究室に来て、午後 5 時前には帰宅した。私は朝 9 時頃に来て、夜 9 時頃に帰宅するという日本人の行動をとった。住まいはタイ出身の建築家が経営するアパートで、台所が付いた 15 畳ほどの部屋で、快適だった。昼食は学生食堂で取り、朝食と夜食は自炊した。カナダの友人から頂いた炊飯器でご飯を炊いた。しかし、当地ではタイ米しか入手できず、独特の臭いには閉口した。

アパートは大学から 7km 程の距離にあり、大家の奥様から借りた自転車で通勤した。雨の日は合羽をまとい、通った。日曜日は、1 週間分の食料の購入、近くでのサイクリング、森林や運河沿いでのジョギングを楽しんだ。エアランゲンは緑化のモデル地区で、森林中には多くの散歩コースが整備されていた。

ドイツはレーサー・シューマッハの本拠地で、週末になると学生等はサーキット場でレースを楽しんでいた。私も 2 度ほど参加したが、暴走族の私もドイツ人には敵わなかった。又、時には大家宅でのガーデンパーティ=写真=、大学の庭でのビアパーティも楽しんだ。

約 30 回の国際会議での研究発表とドイツ滞在を通じ次のことを感じた。米国・日本では技術を重視し、困難な問題点の上の方を目指し、テクニックで問題解決を図ろうとする。しかし、ドイツ人は問題点をどんどん掘り下げ、到達したサイエンスに基づき、根本的な問題解決を図り、他国が追従できない成果を出していることを実感した。その結果、帰国後はテクニックではなくサイエンス（数学、物理、化学、生物学、哲学）をベースとした論理展開を重視する学生指導が出来るようになったことは、大きな成果である。



第二次世界大戦後のデンマークの実話を映画化した「ヒトラーの忘れもの」(Land of Mines 地雷の国)が 12 月、東京、千葉などで封切られる。



故国に捨てられたナチドイツの少年兵 恐怖の地雷撤去作業 「ヒトラーの忘れもの」封切りへ

ユトランド半島の西海岸のデンマーク領 400km にナチドイツ軍は 150 万の地雷を敷設した。英軍の侵攻を防ぐ「大西洋の壁」の一部。1945 年 5 月、同国駐屯ドイツ兵 20 万人のうち 19 万人が帰国したが、大戦末期に徴用された少年兵ら 1 万人が残された。ナチドイツへの憎悪をたぎらすデンマークの鬼軍曹の指揮下で、その少年兵 11 人が地雷撤去に取り組む=写真、下。広大な海岸を横一線に這い、棒で地雷を探して信管を抜く。死と背中合わせの恐怖と切迫感。美しい静寂な砂地と海。そのあまりに対照的な風景。帰国への希望だけを支えに死へのおののきと飢えを耐える作業が突然の大爆発と炎で止まる。観客席でさえ血が凍り、鼓動が否応なく高まる。物語、最後のどんでん返しがまた「戦争と人間」を否応なく考えさせてくれる。



地雷は 21 世紀に入っても 5000 発が残されていて、2012 年の撤去「完了宣言」後も観光客により発見され、大戦の傷痕は癒えない。

上映館は「シネマスウィッチ銀座」(03-3561-0707)が 12/17 土から約 3 週間、「千葉劇場」(千葉市中央区 043-227-4591)で 12/31 土から約 2 週間 (いずれも予定)。=写真はパンフから= (田中 正延)



恒例の新春講演会は来年 1 月 29 日（日）13:00 から、船橋市の中央公民館（船橋市本町 2-2-5 ☎ 047-434-5551）で行われる。講師は松沢幸一氏（元キリンビール社長）で、演題は「ドイツが育んだビールとその産業・文化」。ビールはメソポタミア文化とともに生まれた穀物を原料にした醸造酒だが、ローマ時代以降のビールの発展はドイツ人が担ってきたといわれる。ミュンヘンで知られる「ビール純粋令 *Das Reinheitsgebot*」発布から満 500 年の 2016 年は、ドイツはもとより日本でも大いにビール党が楽しんだ。西ベルリンでビール醸造学を修め、醸造マイスター資格を取得した講師が、その歴史や技術を振り返りながらビールをめぐる産業や文化、わが国のビールとの関わりを話す。講演は無料。講演後、15:30 から「カーサ・グランデ」（JR 船橋駅南口 西武デパート 9 階）で懇親会を行なう。参加費用は 4,500 円/1 人。問合せ先：080-4463-2609 行事担当（9:00～18:00 まで）へ。

会員の皆さん、ご家族、ご友人をお誘いのうえ、奮ってご参加ください!!

新入会員紹介

- ◇太田黒 亜弥子(53)=船橋市松が丘
- ◇太田黒 訓子(19)=同
- ◇鎌田(旧姓カウフ)・タベア(30)=(公財)日独協会
事務局員：小金井市東町 (敬称略、順不同)



バッジ販売のお知らせ

千葉県日独協会は今年 6 月に決まった協会ロゴマーク=写真左=のバッジを会員向けに販売しています。ネジ式、タイタック、安全ピンの 3 種類で、いずれも 1 個・500 円。

出版



協会に入会した鎌田タベアさん（上記「新入会員紹介」&1 面記事参照）が「日本人が知りたいドイツ人の当たり前 ドイツ語リーディング」を出版した。東海大学の柳原伸洋・講師との共著（三修社 ¥2200 + 税）。タベアさんはベルリン生まれで、フンボルト大学を経て東海大に留学。

現在、(公財)日独協会の職員で、広報、若者交流を担当している。

「知っていたつもりが知らなかったドイツ」が

▼ テーマだという本書。「ペットはイヌ派が多い?」「じゃがいもばかりで飽きない?」の日常生活編から、「人気の歴史上の人物は」の地理歴史、「右翼の動向は」を伝える現代社会、「どんなバンドが注目されているか」の文化芸術など 5 章から成る。

ドイツ語文と日本語による“対訳本”。「読み物としてもドイツ語学習としても楽しめる」（「はじめに」）。「このささやかな本を読み終えたら、自分自身のドイツを発見する旅に出てください。ドイツはさらに多くの驚きによって、皆さんを迎えてくれることでしょう」（同）。「生きたドイツ語」の実践的会話もおもしろい。

編集後記

◇創立 20 周年祝賀会に、千葉県表彰、ドイツ軍人慰霊祭などと協会にとって大きな、そして思いがけない出来事が相次ぎ、窮屈な誌面になった。ことに、来賓の祝辞、慰霊祭のご挨拶などはほんの触りだけしか収録できず、残念且つ申し訳ない気持ちです◇記念講演におけるアイゼンハウアー氏の提言は興味深かった。学校教育で民主主義や政治的成熟性を高めるには“debate 授業”が必要だ、と。最近、ある大学の総長の講演を聴く機会があった。総長は「日本の幼児が大卒後に就職する先は 60%が今ない職業に就く。今の職業の 45%がコンピューターにとって替わられる」「基礎的な知的体力と社会の激しい変化に対応した教育による個々人の自由な発想、独創性が求められる」という。彼はさらに「『答え』が幾つもある世界。価値観が異なる人々とのコミュニケーション能力が必要となる」とも説いた。アイゼンハウアー氏と一脈、通ずるに違いない。「正解」が一つしかない、マークシート方式による今日の大学入試が”元凶”“と言われて久しい。「異端」を弾き、「和」を尊ぶ、わがムラ社会。日独交流の行く末に思いを馳せた。（田中 正延）